

神奈川県病院薬剤師会では例年、大規模災害に備え災害時被災状況報告訓練を実施しています。災害時には被災状況を取りまとめ把握することから始まります。昨年度の訓練から報告方法を日本病院薬剤師会の被災状況・支援ニーズ報告 ver.1.0 に準じた連絡フォームのみとしました（FAX、メール廃止）。連絡フォームは神奈川県病院薬剤師会ホームページおよび月例案内に URL と QR コードを表示して周知しました。また被災想定として、神奈川県災害情報ポータル（<https://www.bousai.pref.kanagawa.jp>）のハザードマップより、自施設付近の災害危険度から被災状況を想定して頂きました。各施設からの災害時被災状況報告書を取りまとめましたので報告いたします。

【被災想定】

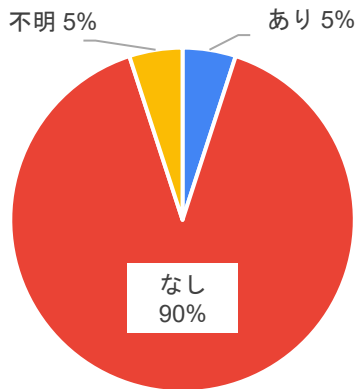
被災日時：令和 7 年 9 月 1 日(月曜日) 午前 9 時

災害規模：神奈川県全域 大型台風が本土に上陸し、神奈川県全域に大雨洪水警報発令
日降水量 680mm、最大 1 時間降水量 140mm、横浜市全域で停電

1. 報告施設件数 192 施設／316 施設（回収率 60.8%）
2. 医療機関の所在地（都道府県） ☐ 必須 192 施設回答あり（100%）
3. 医療機関機関名 ☐ 必須 192 施設回答あり（100%）
4. 報告者名 ☐ 必須 192 施設回答あり（100%）
5. 報告者の所属 ☐ 必須 職員：192 施設（100%）外部支援者：0 施設（0%）
6. 報告者の電話番号 ☐ 必須 192 施設回答あり（100%）
7. 医療機関薬剤部門の連絡先 ☐ 任意 75 施設回答あり（39.1%）
8. 薬剤師の人的被害状況 ☐ 任意

なし	9 件
あり	162 件
不明	9 件

回答なし 9 件



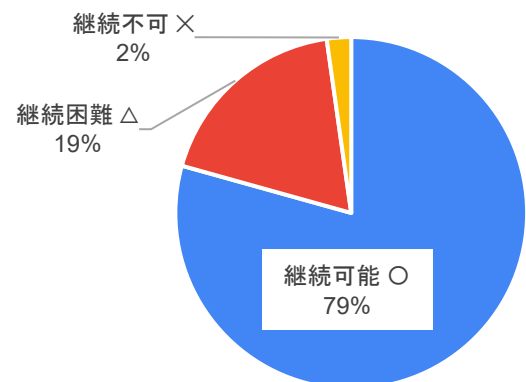
9. 人的被害が生じている場合の状況フリーコメント 任意（一部抜粋して原文のまま記載）

病院周りが河川氾濫、高潮の影響により来院困難、徒歩圏内で来院できる 10 名にて業務対応
2 名 交通機関の遅延等により出勤していない職員がいるが停電の影響もあり不明

10. 内服薬調剤の継続は可能ですか 任意

継続可能○	142 件
継続困難△	33 件
継続不可×	4 件

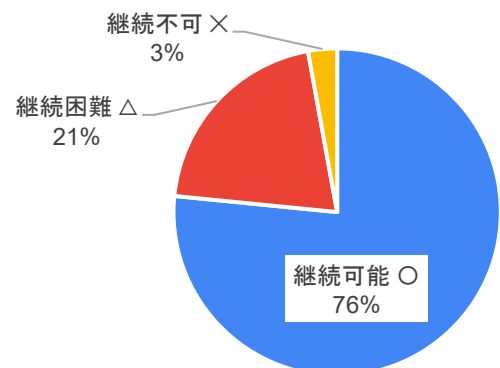
回答なし 13 件



11. 注射調剤の継続は可能ですか 任意

継続可能○	134 件
継続困難△	36 件
継続不可×	5 件

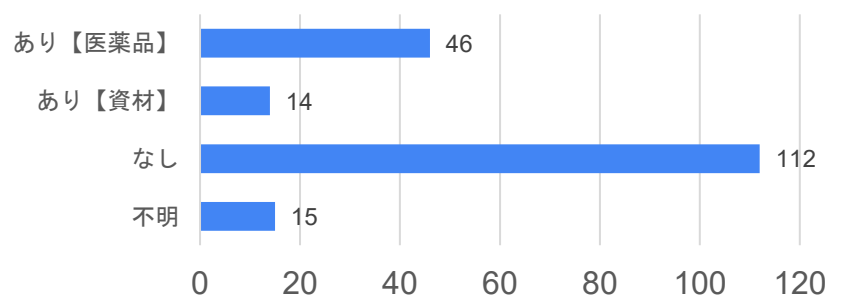
回答なし 17 件



12. 不足している医薬品・資材はありますか 任意

あり【医薬品】	46 件
あり【資材】	14 件
なし	112 件
不明	15 件

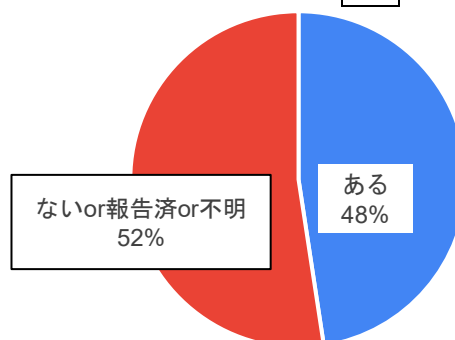
回答なし 17 件



13. 調達困難で不足している o r 今後不足の可能性のある医薬品はありますか 任意

ある	79 件
ない or 報告済 or 不明	87 件

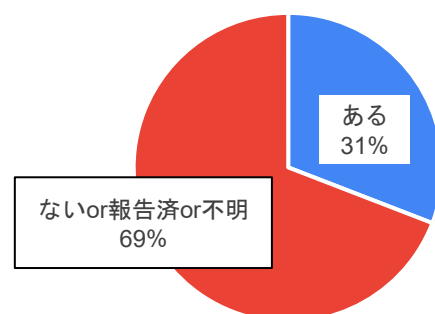
回答なし 26 件



14. 調達困難で不足している o r 今後不足の可能性のある資材はありますか 任意

ある	50 件
ない or 報告済 or 不明	112 件

回答なし 30 件



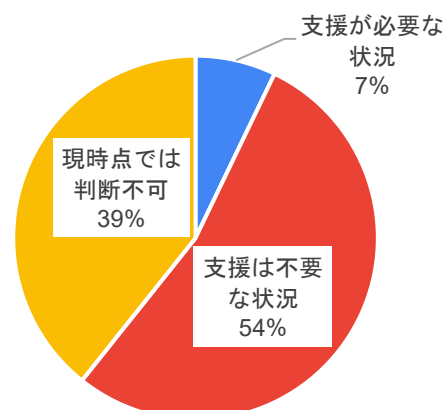
15. 薬剤業務関連の被害状況を自由に記載して下さい。任意 (一部抜粋して原文のまま記載)

防潮堤により当院への浸水被害はないが河川氾濫、高潮被害によりみなとみらい地区が孤立、乗用車での物資の供給が困難、現時点で保有する医薬品、医療資材は3日分は確保
非常用電源で電子カルテ、調剤支援システムは稼動しているが、停電が続けば使用不可になる。また、当院はハザードマップ通り被害はほぼ無いが周辺で浸水、土砂崩れが多く薬品の納品や患者転送に影響がある。
停電により院内システムがダウンし、調剤部門システムも同様となっている。早急な対応が必要な一部処方オーダーは、手書きで対応している。

16. 外部支援（病院薬剤師）の必要性 任意

支援が必要な状況	12 件
支援は不要な状況	90 件
現時点では判断不可	66 件

回答なし 24 件



17. 伝言板 任意（一部抜粋して原文のまま記載）

病院周辺状況ですが、多摩川による洪水、浸水と内水被害以外の大きな災害は見受けない（当院周辺では土砂災害などはなし）。豪雨の継続時間によっては当院自体が浸水被害を受け、CT/MR といった診断機材が使用不可になる恐れはあり。時間が短時間であればさほどその心配性はなくなり、交通状況も維持でき問題は無いと思われるが今後の状況次第。
当院の周囲は 1m の浸水していますが、防水壁を設置したため、浸水を防ぐ事が出来ています。勤務が通勤困難な場合や、自宅が被災して出勤が困難な場合は支援を必要とする可能性があります。
大学薬学部です。現在夏休み中のため、学生はあまり登校してきておりません。現在の所安否確認を進めています。必要時、薬剤師免許をもった薬学教員、および薬学生によるお手伝いは可能です。

まとめ

本年度も昨年度から統一した日本病院薬剤師会の被災状況・支援ニーズ報告 ver.1.0 に準じた連絡フォームを使用して報告訓練を実施しました。本年度は視認性の高い黄色い用紙で月例及び訓練 1 週間前に案内を郵送しました。報告施設数は 192 施設であり、会員施設の 60.8%と初めて半数を超え、一昨年度までの 3 割前後から大きく増加した昨年度の 46.1%と比較しても一層増加しました。ご協力いただいたご施設には御礼を申し上げます。

日本全国で豪雨災害が発生していることを鑑み、本年度は神奈川県全域に大型台風による大雨洪水警報発令に加えて横浜市全域で停電が発生した想定としました。神奈川県においてもリスクが高い大雨洪水による影響を常に考え、薬剤部門のマネジメントを行っていかねばならない状況です。また神奈川県災害情報ポータルのはazardマップも合わせて確認していただくことにより、より具体的に自施設付近の災害の危険度から被災状況を想定して頂きました。浸水による建物・薬品・医療機器の被害、交通の乱れによる職員や流通への影響、また停電により調剤機器等が使用できなくなる影響を確認して頂けたかと思います。今後はご報告いただいた被災状況を把握し、その状況への対応策や情報をどう活かせるかなど、報告の活用方法を検討しております。今後ともご協力よろしく願いいたします。

報告施設件数推移

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
報告施設数	67	98	105	94	148	192
会員施設数 ※)	339	333	333	332	321	316
報告割合 (%)	19.8	29.4	31.5	28.3	46.1	60.8

※) 事業概要報告書より